

# HSK

# どろじん

第 37 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可  
H. S. K通巻236号

発行日 平成3年12月10日  
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会  
札幌市北区北35条西5丁目1-10  
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会  
札幌市北区北13条西1丁目

神原義郎

平成3年 初冬号

特集『腎移植の状況と今後の展望』

腎バンク登録拡大街頭キャンペーン報告



撮影 永田 和之氏  
苫小牧市ウトナイ湖 (北海道)

北海道腎臓病患者連絡協議会

# 青春の一日

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



青春は遠い昔になった。札幌の8月の空は限りなく青くさわやかだ。円山公園の麓でしばし涼風を味わい、緑の木立を吹き抜ける風と空は遠い「青春の一日」を想い出させる格好な場所でもあった。

それは全国高校野球南北北海道大会が円山総合グラウンドで開催され、私の母校が地元札幌校との決勝戦に臨んだのである。私は母校の応援に出かけたのである。

応援団はと見れば、あごの下まである長めの詰襟にひざ下までの学生服をきっちり着込み白手袋をしていて、それだけでもさぞ暑からうといういでたちであった。

だが彼らは試合の合間でさえも、いつ時も休むことなく母校の応援に腹の底から声を張り上げ激しくキビキビした動きの連続であった。

私は彼らの玉のように流れる汗を、力強く響く太鼓をたたく手のまめを思い終始、校旗を掲げ持つ旗手の肩や腰の痛みをわが身に重ねた。特に最終試合の間中ハタハタと校旗を翻すべく高く掲げて、観客席の左右の端まで走り続ける旗手の姿を見るに至って感極まってしまった。将に青春の情熱そのものだった。

そして半世紀ぶりに聞く在校生1,000人余の校歌。応援歌は私の青春を思い起す感動の極致であった。

涙がとめどなく頬をぬらし、いかんとも仕難く若き「青春の一日」が幻影の如く走馬灯のようにかけ巡ってくるのである。母校の卒業時が昭和16年3月、太平洋戦争がその年の12月に勃発する。既に昭和12年7月には盧溝橋事件発生、中国側と全面戦争となり抗日運動に拡大して行くのである。そして翌々年の昭和14年5月には旧満州とソビエト国境で「ノモンハン」事件発生、当時日本派兵の関東軍6万人戦死、短期間のうちに戦争は終わったが日本軍の完全敗退であった。

私共は、こうした戦争のさなか母校を卒業したのである。わがクラスメートは入学時40人いたが、卒業時は35人になっていった。当時の社会環境は軍事一色、クラスメートの大半は本州の軍需工場へ（航空機製作所）、残りの7、8人は旧満州へと旅立っていた。残りの4、5人は道内（N社、国鉄、炭鉱）であったが、昭和20年の敗戦を機に旧満

州組はシベリアへ抑留されて全員が死亡、本州組は軍需工場の解体で北海道へ帰り、私共の道内組は途中戦争に狩り出されたが、全員定年まで勤めた。

私共の年代は生まれた時が関東大震災の不況時、楽しかるべき青春時代は戦争へと出征し巡り合せの不運な時代でもあった。戦争体験を経た私にとって青春はなかった。そんな苦しみも悲しみも幾歳月を経た私にとって、円山の杉木立の垣間見る8月の陽光に野球応援の歓声が入り混って「青春の一日」を連想させる素晴らしい燦々とした日であった。

そうした一方で、華やかな活躍選手やチャアガールの陰にかくれて注目されることがなくても、力一杯青春をかけている応援団、そんな彼らに私は力一杯拍手を送るのだった。

……青春、それは戦争と共に消え去った遠い遠い昔であった。



11月9日

# 第31回道腎協ブロック会議開催される

平成3年11月9日、札幌市の北農健保会館において役員・役員代理・特別参加（役員研修会）・事務局員合計32名により第31回のブロック会議が開催されました。

開会后、役員及び同じ仲間の逝去を悼み全員で黙祷を捧げ冥福を祈りました。



岩崎会長の挨拶の後、札幌腎友会の棧氏を議長に選出して議事に入って行きました。

## 1 報告事項

- (1) 全腎協第61回幹事会報告
- (2) 各ブロック活動報告
- (3) 道腎協前期活動報告
- (4) 道腎協前期会計報告
- (5) 道腎協前期会計監査報告
- (6) 役員研修会について

主な報告では、全国的に障害年金の受給停止されている所が多くなってきた。道内各ブロック活動報告では、陳情の成果として透析ベッド増が報告されている。

## 2 討議事項

- (1) 障害年金をめぐる状況と技術上の問題点について
- 初診日の認定と年金の納付要件について学習しました。

- (2) 要介護透析患者対策について

全腎協要介護透析患者対策委員会の調査では、65歳以上の患者が22%もあり、又、日常生活でなんらかの介護を受けている人が透析患者の30%もおります。新規透析導入患者の平均年齢も57歳と高齢化しており、今後、



- (3) 第22回全腎協総会の対応について

第22回総会の参加状況を全腎協でアンケートを取った所、参加数が当初予定数より大幅に増えており、特に臨時透析の対応



## 結果報告

# 第11回腎バンク登録拡大(10月6日) 全国いつせい街頭キャンペーン

昭和61年度より厚生省が定めた「腎移植推進月間」に呼応し、道腎協もこの「月間」をより盛り上げ、腎バンク登録者の拡大をめざす啓発運動などの道民的運動を展開しました。

10月6日、一部のブロックを除き、全道ブロックで患者、家族、医療関係者、行政関係者、ライオンズクラブなどが参加し、ティッシュ・チラシなどを配布して腎バンクへの登録を呼びかけました。また無料腎臓病相談、無料血圧測定が各地で行なわれ大変好評でした。

### 札幌腎臓病患者友の会

晴れ渡った秋空の下、大通り3、4丁目では患者、家族、医師、医療スタッフ、道庁、札幌市の行政、札幌スノーライオンズクラブ、腎臓バンク、腎臓移植者、難病連等80名の参加で、ティッシュ、チラ

シ、風船等を配付しました。広報者のほり、横断幕等も用意し無料血圧測定、腎臓内科相談も行なわれ、道行く人々の足を留めました。NHK、HBC、STV、UHB、道新、朝日、北海タイムス、毎日の報道機関によってキャンペーンの模様が報道されました。

当日の登録者6名、血圧測定10人で今一歩でした。今後の課題として各関係機関との腎キャンペーンを道民市民運動として、いかに定着させて運営すべきか、従来の運動のあり方についても見直しする時期にきているように思われます。(報告 岩崎)

### 根室地方腎友会

10月6日、全国一斉キャンペーンにあわせ根室でもキャンペーンを行いました。

根室内にあるファミリー・デパート前で行い、会員ら13名が集まりデパート入口前と屋上駐車場入口の2カ所でチラシ500枚、ポケット・ティッシュ500個、風船100個を11時より1時間ほどで配りました。

この日は、天気がよく、デパートでも売り出し中で人の出入りも多

が大変な為、全腎協に人数調査をしていただくということになりました。

### (4) 北海道難病センター

ケア住宅付別館建設運動について  
それぞれ各ブロックにおいて

署名、募金を積極的に取り組むことになりました。

翌、10日は、役員研修会を開催しました。「社会福祉8法改正」と今後MSWに求められるもの」というテーマで、北成病院のMSW大聖由利子さんに講義をし

て戴きました。メディアカルソーシャルワーカーとは、またゴールドプランとは、社会福祉8法改正のポイントとはと長時間に亘り大変好評でした。





と思います。

く、また新聞社2社が取材に来てくれ、新聞に載せてもらいました。また、行政関係などに資料など送り協力をお願いしましたが、協力して貰えませんでしたのが残念でした。今後の課題です。

キャンペーンに参加された会員の皆さん、大変御苦労様でした。

(報告 岡田昌治)

## 留萌地方水無人腎友会

今年度の街頭キャンペーンは、何よりも天気に恵まれ、各自持場で通行する人に懸命に訴えていた

通行する人は必ずしも多くはありませんでした(たぶん学校の行事や車での脱出組のせいでしょう)

が、笑顔で応対する人、無言で通り過ぎる人など例年どおり、さまざまな人間模様をえがき出してました。留萌・羽幌の双方で病院関係者のご協力を得られ、普段、透析室内とまた違ったふれあいを感じられました。双方合わせて40名程の方が参加しましたが、皆さん一生懸命訴えておられました。そのためか、キャンペーン終了近くになると、緊張感から解放されたのか、どつと疲れがおそってききました。しかし、やりとげた充実感というものは何ものにも替えがたいものでした。

終了後、双方とも喫茶店や食堂での反省会を行いました。

反省点として、もっと準備をしっかりやること、参加者が増えるのもっと充実して行なえるのではないかと、チラシなどの配布する場所をもっと考えて行なわなければならぬのではないかと。などいろいろな話が出ました。

ともあれ来年も又笑顔で街頭キヤ

ンペーンが行なわれることを願います。(報告 豊島恒樹)

## 深川腎友会

道腎協より市長さんに「腎移植推進月間」キャンペーンに対する要請文書が送付されたと言う事で、10月5日高桑市会議員の仲介に依り市長さんに面会。深川腎友会として改めて協力の要請をお願い致しました。

さて、当日街頭に出る予定の患者さんが体調悪く、会員は今井会長を含め5名、他に家族の方、看護婦さんと市会議員を含め合計9名。

行動に入る前に市当局や高桑議員の要請に依り、市の広報課と北空知新聞社の方が、お見えになり記事の取材と写真を撮りました。

いよいよ午前11時より市内4条8丁目拓銀前交差点にて各々分散して行動を開始する。

天候は晴れて大変気持ちがいい。街頭キャンペーンは始めてなので皆んな始めのうちは緊張がきみ。私は風船を作って活動中の会員等に配って走り廻る。市会議員の高

桑さんには、ハンドマイクでキヤ

ンペーンの趣旨と協力を呼びかけしていただく。

行動に参加した皆さんは通行中の市民に悲痛な思いでチラシや風船を手渡し協力を呼びかけています。御協力をお願いしますが、お願いますと声を枯らして通行人に頭を下げている様子が目に入り耳に聞こえてきます。

責任者として私は頭の中がジーンとして来ました。然し通行中の人の中には手で払いのけ拒否する人もいます。そんな時、心の中が暗くなりました。

深川での街頭キャンペーンは始めてなので、市民の方も余りピーンと感じていないようでした。ただ子供達が風船を手に喜んでくれたのが、せめてもの気やすめでした。

活動中の仲間をばたきして走り廻る。深川は人口も少なく人通りもまばらでしたが、1時間30分ほどで無事終了しました。

後日キャンペーンの反省等を開き、今後一層の強化を計りたいと皆んなで話し合い、効果のある事を信じて散会しました。

藤田市長さんも街頭キヤンペー





ンだけでなく、全市の町内会長さんの会議にもこの件をお話して、協力をさせていただく事を約束してくれました。いづれにしても初めての事ではありますが、一定の成果があった事と信じています。

御協力いただいた関係各位の方々に深く感謝申し上げ報告と致します。

(報告 鈴木春美)

## 浦河地区腎友会

去る、11月17日、浦河町において『浦河町健康づくり大会』が開催され、浦河町で初めての『腎バ

ンクキャンペーン』を実施することが出来ました。

私達、透析を受けながら生活している者にとつて、腎移植は、新たな人生を拓く第一歩ではないかと考えるとき、今の腎バンクの現状は、私達の希望を叶えるのに余りにも登録者が少なく、悲観的な状況であります。

しかし、一番、腎バンクの充実を必要としている私達が、まず行動を起こさなければ何一つ解決しない、ということも現状であります。

今回、腎バンクキャンペーンを実施して登録してくれた人の声の中に、『このような機会を待っていませんでした、ぜひ、登録させてください。』又、『こんな年齢ですが、皆さんのお役に立てるのなら……』など、たくさんありました。

私達の活動が、もっと地域の人達に届くように、そして、もっと積極的な行動が必要と感じております。

あいにくの天候で、肌寒さを感じながらのキャンペーンでしたが、地域の方々と健康づくり大会の主催者の方々のご支援とご協力のお

かげで、私達の心の中に、ほんのりとした暖かさと、希望を残して終えることが出来ました。

全道のみなさん、いろいろな機会を通して、私達仲間の明日のために、ひとりでも多くの登録者を、私達の手と行動で増やして行きましょう。

(報告 毛内裕之)

## オホーツク腎友会

朝、起きると秋晴れの大変良い天気でしたので安心しました。10時に会長、副会長が事務局長宅に集合しました。前日用意して置きましたキャンペーン用の「看板」を軽トラックに積み込み、市民会館へ向かいました。「長机」と「パイプイス」を借りて積み込み、実施場所の「ラルズプラザ網走店」に行きました。次々と会員、行政の方々が来て下さり準備が早く終わりました。

実施時間は「11時から12時迄」でしたが、今日は「網走市民駅伝」の「スタート」と「ゴール」地点になっていましたので、沢山の人が出で賑わっていました。時間的に少々早かったのですが、キャンペーンを開始しました。



保健婦さんが2名来て下さり、血圧測定を実施致しましたが、30分位で終了する間に20名の方が測定を希望され、皆さんが健康に注意されている様子が、よく分かりました。

500部用意しましたキャンペーン用品も短時間で配り、終了後、記念写真を写し、後かたづけをしました。「ラルズプラザ4F」にて食事をしながら楽しい時間を過ごしまして解散致しました。

今回は充実したキャンペーンになったと思えました。又、来年も

会員、行政の方々の協力を得ながら頑張つて活動したいと思つて居ります。(報告 佐々木保子)

### 道南腎臓病患者連絡協議会

函館・棒仁デパート前で患者家族、市立保健所等合計29名の参加でした。NHK函館放送、道新などで腎キャンペーンの模様が報道されてきました。当日の登録者は1名でした。

今年はやかい天候に恵まれ、参加会員も例年になく多数の人員が集まり、スムーズにキャンペーンが行なわれた。新聞社の取材も初めてあり、腎バンクの必要性が世間に少しPRされてきた様に考えられます。(報告 田中政夫)

### 小樽後志地方腎友会

小樽駅前長の長崎屋前で患者・家族合計22名の参加者でした。ティッシュ・風船・尿試験紙を配布しました。市発行広報紙へ掲載されました。当日10名の方が登録カードを希望して持つて行きました。

好天に恵まれ、参加会員の数も多く大変順調に行動することが出来ました。市民の反応はいまひと

つと言つた所でしたが、尿試験紙の反応は非常に良く今後も大いに活用したい。小樽は近年観光ブームで観光客の多い運河周辺でキャンペーンを企画するのも一考かと思ひます。(報告 津田嘉郎)

### 十勝地方腎友会

帯広市の藤丸デパートとイトーヨーカ堂前の2ヶ所で患者・家族・医療・行政関係者の合計75名の参加者でした。

報道は十勝毎日・東北海道・道新に掲載されていきました。当日登録9名でした。

今後の課題は、キャンペーン期間中に報道・行政・国会議員に対してPRを行ないたい。毎年、会員の参加者が増えていきます。(報告 佐藤武夫)

### 北見地方腎友会

北見市中心商店街各デパート前で患者・家族・医療関係等合計26名の参加者でした。

カードを受け取りにきてくれた方が3家族いました。晴天に恵まれ、人通りも多く昨年よりチラシを受け取る人が多かった。中には

御苦労様ガンバッテと声をかけてくれる人もいました。(報告 西木戸隆博)

### 千歳腎友会

千歳市のエスプラ前で患者・医療関係者合計22名の参加者でした。千歳民報社が取材にきてくれました。当日登録者は2名でした。

今回は患者の参加が少なかつたので、この次は沢山の人に参加してもらおう様に考えている。

行政に働きかけて市民へのPRをする様にしたいと思ひます。(報告 江島寛)

### 旭川地方腎友会

旭川市1条7丁目今井デパート前で患者・行政関係者合計32名の参加者でした。チラシ・風船・尿試験紙・ティッシュを配布しました。行政その他の連携が準備不足で来年の課題としたい。(報告 佐藤昌夫)

### 室蘭地方腎友会

室蘭市・伊達市の2カ所で患者・家族・医療関係者合計23名の参加者でした。

室蘭市・伊達市の後援が得られ、当日1名の登録があり、後日7、8名の登録が予定されています。

ティッシュ・チラシの他綿あめを70、80本配布しましたので大変好評でした。今後配布するものとして、流行のキャラクターのワッペンなんか考えたら良いと思ひます。(報告 佐藤利國)

### 夕張腎臓病友の会

石炭の歴史村で患者・家族・行政関係者の合計22名の参加者でした。社会福祉協議会の協賛が得られました。夕張腎臓病患者友の会独自のパンフレットを作成し配布しました。今後の課題として、もっとマスコミに報道してもらいたいと思ひます。(報告 浦正 明)

### 釧路地方腎友会

長崎屋釧路店前で患者・家族等合計25名の参加者でした。道新・釧路の各方面に報道されています。市民の反応はあまりなく、腎友会だけでなく、他の団体にも協力してもらふ必要があると感じました。(報告 橋本 厳)



**苦小牧つくし会**  
 苦小牧駅前南北両出口と長崎屋前で患者・家族合計30名の参加者でした。苦小牧民報に事前に2回掲載されています。  
 来年は市のふれあい会の会場や健康祭の会場で開催を考えています。  
 (報告 廣岡達夫)



**腎友会滝川クリニック 透析者の会**  
 滝川西友デパート内3階の滝川市民健康まつりにおいて、患者、家族、医療関係者合計25名の参加者でした。ティッシュ・ボールペン・メモ用紙を配布しました。滝川市の協賛をえられて健康まつりでキャンペーンを実施いたしました。

**長崎県腎協雲仙普賢岳**

**カンパ金集計報告**

平成3年11月30日現在

ブロック名	金額
札幌	166,045
小樽	38,100
旭川	0
稚内	0
留萌	10,000
道南	44,785
苦小	10,000
室蘭	11,000
滝川	54,200
十勝	126,471
釧路	49,609
北見	25,000
網走	30,000
夕張	5,300
紋別	40,283
岩見沢	22,900
江別	0
浦河	0
根室	0
千歳	0
深川	17,260
合計	650,953

**平成4年全腎協総会に沢山の参加を!**

現在、道腎協では来年の全国総会に向けて実行委員会を開催して、宿泊の手配、臨時透析の手配等、対応に追われています。

今迄の総会にくらべて地元開催県以外の道外からの参加者が倍の500名と申し込みが来ています。

臨時透析の希望も300名以上と対応に大変苦労しています。北海道開催という事で観光旅行を兼ねてくるものと思われれます。

道外からこれだけの会員が参加されるのですから北海道でも是非沢山の会員の参加を得て、この総会を成功させましょう。

**事務局員交替と時間変更のお知らせ**

現事務局員の田島理架子さんが家庭の事情で12月末で退職することになりました。新事務局員は透析歴5年の三上留美子さんです。田島さん同様よろしくお願い致します。

**【事務局業務時間変更】**

- 月・土 午前10時～午後3時
- 火・水・木 午前10時～午後5時
- 日・祭日・金 休業



# 「腎移植の状況と今後の展望」

市立札幌病院 移植科

平野哲夫先生



生活と患者運動に係わり合っている姿を見ていますと、私としては非常な尊敬と今後の活躍を期待したいと切実に思っています。

私自身は慢性腎不全の治療として、透析と腎移植は車の両輪だと思っている人間として、様々な社会的な問題、医療上の問題、それから技術的な問題とあるわけで、そういう事に対して、色々な意味で意見なり資料をたく役割として存在する道腎協に期待しているという様にお話をして、これからのお話をさせて頂きます。

実際に透析を受けられている患者さんの闘病生活をみていて、水分の制限や時間的な拘束等色々な問題の中で、自分が透析になったときに生きられるだろうかという事を考えますが、日々皆さんの闘病

市立札幌病院の腎移植科もようやく医師2名体制になりました。今まで私は、昭和59年から一人でやってきました。しかし一人で出

来る様な事ではなく、色々な方の指示を仰いできましたが、現在2人になって朝から夜まで透析の事を含めて、腎不全の治療をどうする、移植の事をどうするという事を考えながら生活している毎日です。

その中で、私は透析を受けている患者さんが全員移植を希望するとは思っていませんし、全員が移植が必要だとも思っていません。ただ移植を希望する患者さんが宝くじ的でなく、ある程度普通に移植が受けられる様なシステムをどう作っていくのか、又その成績をどう向上させるのかというのが、私達の最も重要な課題だと考えています。

現在慢性腎不全の患者さんは週3回程度の透析を受けられています。全国で約10万人いて毎年純粋に7千人づつ増えているそういう患者さん達が持っている問題はた

くさんあります。骨の問題とか循環器係の問題とかは非常に大きいと思うのですが、こういう色々な副作用なり合併症というものが、現在の人工透析では、まだ100%解決出来ない為に生活の質の問題等を含めて、合併症や副作用の予防という点で腎移植の問題があるのだと思います。

週3回の通院透析、それから現在CAPDという持続型の腹膜灌流も出ていますし、夜だけ自宅でコンピュータによって自己管理出来る腹膜灌流装置というのも出ていますので、完全社会復帰の点ではまだ問題はありますが、移植は現在良い提供者がいて適合がうまくいってくれば、月に1回の通院だけで患者さんが生活をエンジョイできるという所までできています。従いまして、非常に順調な患者さんというのは、カルテを見ますと年に12回しかきていないという患者さんが結構あります。そういう所までもってこれるのだというのが、今の移植だということから今後のお話をしていきたいと思えます。

## 少ない死体腎移植

日本の腎移植は昭和40年位から行なわれ始めました。それで、一昨年の全国統計で年間760件、だいたい800例近い移植が行なわれています。その中で、死体腎移植というのは、一時アメリカから脳死状態から摘出された腎臓が送られてきて、盛んだった時期もあるのですが、それが今送られなくなつて来て、現在約25%が死体腎移植というのが現状です。あと圧倒的に多いのが両親、それも母親という事が多いわけで、日本でこれまで約7千例を越す腎移植が行なわれています。この中で問題になるのは、死体腎移植は今後盛んにならないといけないですし、それから両親、兄弟、勿論兄弟でも型が合わない方もいらっしゃると思います。それから非血縁をどうするかと言う問題があります。非血縁というのは、日本で今迄1000例を越す移植が行なわれて来ていますけれども、日本移植学会としては、非血縁間の移植はやってはいけないという事を決めていますし

て、私達も特殊な夫婦例を除いては、非血縁関係の腎移植はやらないという事を方針としております。これは、過去89年までの全体の割合はどうなっているかというのと、死体腎移植が25%、両親が56・5%、兄弟が14・4%ですが、89年に限つてみれば死体腎移植が30%、両親が50%、兄弟が11%という数字だという事です。

現在、透析患者が10万人いて、年間7千人づつ純粹に増加する、このまま年間800例程度しか腎移植が行なえないと仮定した場合、2020年、約30年後に透析患者数は25万人になるだろうと思われまます。それに対して、死体腎移植等で年間8千例程度移植が行なわれる様になるならば、2020年に透析患者数は15万人になるだろうという予測をしています。これは、日本移植学会で出した腎移植の成績なのです。現在は、もう少し上がっていると思います。

生存率というのは、移植を受け

て貰った腎臓が働いている率、つまり、透析に戻って頑張っている患者さんを含めた率で、生着率というのは、移植した腎臓だけで、透析をしないで頑張られている患者さんの率です。生体腎移植で、生着率は1年で95%、3年で85%、5年で79%です。それに対して、死体腎移植では、1年で93%、3年で78%という数字です。それに

## 組織適合性が重要

対して、移植した患者さんの生存率は、1年で97%、3年で93%、5年で91%です。死体腎移植の取組みは、最近良くなっていますので生存率に関しては、死体腎移植が98%という数字なのですが、我々の経験でもこれよりもっと良いと思いますし、どんどんこの成績は上げられてきていると考えて良いと思います。

現在の腎移植を支えてきて良い成績を出せる様になってきた背景には、3つの因子があるのですけれども、その第一が組織適合性検査、型合わせの検査です。まず赤血球型を合わせる事で、O型は誰にでもあげられるけれども、AB型はAB型の人にしか上げられないという様な事は大前提だったのですけれども、最近我国とオランダで生体腎移植に限り、ABO型の適合を無視して移植が行なわれる症例がでてきました。これは従来の免疫学的な考え方を打ち破る非常に大きなものなのですけれども、ただ問題がありまして一つは、

特殊な免疫吸着の操作をかなり複雑にやらなければならぬという事と、移植時に腎臓をもらう患者さんの脾臓を摘出しなければならぬということ。脾臓を摘出しますと、バイ菌が付いたりする可能性が強い為こういう問題が一つあります。もう一つは、普通のABO型を合わせてやった場合より18%程度成績が落ちるだろうと言われていまして、まだ5年を超える長期生着が無いと思います。今後どうなるか分かりませんが、現在はその様な所です。ただ、これは死体腎移植では出来ませんので、生体腎移植に限るという前提をとれ

ば、A B O型を無視した症例が一部やることが可能になったという事です。将来、これをもっと超える様なものが出来ているかもしれません。

原則的には、赤血球型を合わせて、次は白血球型(H L A型)な訳です。H L A型というのは、非常に複雑で多様性を持っています。両親がいて子供がいますと、その子供は、父親と母親の半分を持っていますから、親子は必ず半分は合う、兄弟は半分合う事もあります。すし、そっくり合う事もあります。



兄弟であってA B O型が合っても白血球はあかの他人だという人の場合があります。この場合は、移植が出来ないという事です。もう一つ大事なのですが、現在貧血に対して輸血をあまりやらないで、エリスロポエチンを使うようになってきたので、だんだん減ってはいるのですけれども、男性の場合は輸血、女性の場合であれば輸血と妊娠によって身体の中に拒絶反応を待たなければならぬという問題があります。

白血球型は血清のリンパ球を分離させて、その層をうまく使わなければいけないという検査です。検査料も一件当り3万円位かかるという事で、現在骨髓移植がよく新聞で問題になっていると思うのですが、骨髓移植の場合は白血球型をきちっと合わせたいという事で、その患者さんの白血球型を合わせる検査料がそれまでに3千万円もかかっているという記事が出ていました。それでも一人も合う人がいなかったという非常に悲劇的な話です。とにかく一件3万円位かかる検査だという事です。こ

れはH L AのAとかBとか色々あるのですが、BとP Rというのが非常に重要だという事です。これはアメリカのロサンゼルスにU C L Aの組織適合性検査のセンターがあるのですが、そこで死体腎移植でBとP Rの合い方が全く合っている人と全く違っている人です。うなるかと言う事を現した成績なのですけれども、始めて10年までですと明確にその差が現れてきたわけです。現在アメリカでは死体腎移植はそっくり合った患者さんがいれば、東海岸から西海岸まで飛行機で運んでも行きます。それほど金をかけても成績は絶対に良いんだという事で、かなり積極的にやっていると言われています。これは我々日本でも現在検討中なんですけれども、そっくり合った

患者さんがいれば、国内どこでも手配してでも送る様な体制を作るべきではないかという議論が今始まっています。

それで先程、輸血だとか女性の場合妊娠をすると抗体が出来て拒絶反応に働く可能性があるという事で、286名の透析患者さんを調べたものなのですけれども、輸血0、輸血が1〜5単位、6単位以上に分けてます。リンパ球の中のT細胞に出来たものは非常に悪くてこれが一番問題になります。また、6単位以上輸血をやった人には20名に出ています。従って出来れば輸血は避けてなければなりません、やむを得ない場合は、これが無い症例を選ばなければいけないという事です。

## 種類が増えてきた免疫抑制剤

今迄は組織適合性の話で、第2番目は当然我々の体に腎臓を入れるという事は、それが異物な訳です。ですから免疫反応が起きるのが当たり前、免疫反応というのはいわゆる拒絶反応な訳です。それをいか

に防いで腎臓をまもるかと言うのが免疫抑制剤な訳です。免疫抑制剤というのは、従来ですとステロイドというもので特に小児の患者さんですと顔が満月状になるプレドニンという薬とイムランという

薬、それから放射線をかけるという方法しか無かったのですけれど、現在色々な薬が出て来ていると言うのが特徴なのと、日本で外国に示せるような薬が出て来ていると言う事が、大きな特徴です。

ただ、全て薬ですから副作用の出現の可能性がありますが、それぞれの特徴をおさえて飲んだりしなければいけない。もう一つは、移植腎が働いている間、一生薬は飲み続けなければならぬという問題があります。シクロスポリンが出て来たら、腎移植なり他の臓器移植が大きく変わったというのが特徴です。シクロスポリンはカビから採った抗生物質の一種ですが、非常に強い免疫抑制力が有ると言う事で導入されており、この薬は血液中の濃度を調節しながら行わないと、腎臓の働きが悪くなったり、色々な問題が有る事が判って、その調節が今かなり重要視されています。ただ、一定の期間を越えれば薬の量は減りますので、かなり安定して使える薬です。もう一つは、ステロイドですが、ステロイドの大量一回投与は骨がもろくなったり、糖尿病が出たり、

潰瘍を作るなど副作用が出る可能性があります。もう一つは6月になつたら保険がおけると言われている一本10万円で10日間使うと100万円かかる薬です。あと二つは、デオキシスバガリンという日本で開発されたかなり良い薬で、私達も10年以上使っていますが、まだ保険が通っていないのですが、拒絶反応の時に白血病が減る位の副作用しか無い薬です。又FK506というシクロスポリンと同じ様な働きを持った薬が今日本でも

## 生命を守るのが第一

いままでの、移植腎をうまく付ける免疫抑制剤の問題ですが、もう一つは移植に関してかなり色々なパターンをきちんとして、患者さんを上手に診れるように成つてきたという事があります。私自身も、昭和44年から移植患者に係りあっておりますが、その間大変残念ながら不幸にして亡くなられた患者さんもありました。私はその事に関して非常に反省と今後自分がどう頑張らなければいけないかと常々思っております。

開発されています。しかしシクロスポリンに比べて10分の1の量ですむので副作用もシクロスポリンより少し強いものがあると報告されており、今後この様な薬剤はどう使っていくかが問題になっていきます。

シクロスポリンは、もう日本では昭和61年から保険が通って使われておりますが、一瓶50ccで約7万5千円です。現在カプセル剤が出てかなり患者さんが服用しやすくなっています。

す。そういう貴重な患者さん達の闘いがあつたうえで、今の透析なり移植なりが成り立っていると考えており、そういう貴重な教訓の中から私達は現在患者さんの命を守る事が第一だと言うことで行っています。その中で、移植腎を働かせ頑張る事が大事ですが、万が一重篤な合併症が出て移植腎が働いていても、命が危ないときには移植腎をあきらめても、生命を守る事を第一にして、万が一透析に戻ったとしても第2次、第3次の

移植が受けられるわけですから、そのために万全を尽くすという事を、今の私達の方針にしています。そういう中で、患者さんのケアに色々教訓を得てきたことで、少し具体的な話に入って行きたいと思っています。

生体腎移植は、本来死体腎移植が普通に出てくる状況であるならば、本来は殆ど無くても良いのではないかと言う事が考えられておりますが、我が国の現状の中では生体腎移植の教訓というのが、主流だということです。この生体腎移植の教訓とは必ずしも教訓ではなく、側面から肝臓移植の生体肝移植というのができています。私自身はやはり生体肝移植というのは、腎臓もそんなにたやすい事だとは思わないのですが、肝臓の方はもっとリスクがあるという意味で、どうにか避けられないだろうかと思えます。もう一つは、腎臓の場合は透析があるのですけれども、肝移植の場合は、もしお父さんがだめな時にお母さんが次に出すのかという問題になってしまふ可能性があるので、かなり危険な状況に有ると考えています。

生体腎移植は家族的な問題等があります。我々としては手術そのものは99・99%まで安全に出来ると思っておりますし、その後の問題もまず起こらないという事で、外来の時の検査だけ提供者御本人の健康保険を使って、後は入院して

## 実際の腎移植

このスライドは、腎臓を片方取り出して灌注しているところなのですが、生体腎移植の場合は、これを行えばほぼ急性腎不全はありませんし、成績としても非常に良いだろうという事で、問題は無いと考えています。それに対し、死体腎の場合色々な問題点があります。それから交通事故等による、頭の外傷とか、蜘蛛膜下出血とかが問われますし、やろうとする時にやはり3日も4日もおしっこが全く出ないとか、血圧が60のまま3日も続いているとか、クレアチニンが8を越えているとか、そんな事があるとやはり使いものにはなりません。例えば、連絡時間の問題なのですが、心臓が止まってから連絡を受けても、全身をへバ

から移植まで行ってしまえば退院するまでの約1ヶ月(手術前2週間、手術後2週間)の医療費は、全て患者さんの保険でできますので、提供者の負担が無いという点では問題無いと考えています。

リン化していなければまず取り出しでも使えないだろうという問題があります。

これをかなり厳密にやるために、私達は必ず提供を受ける場合には遺族の方から承諾を得たうえでやっているという事です。

それで死体腎移植の大きな問題としては、腎臓が両方あって大動脈があるので、心停止が起きた後、腎臓の動脈の上と下を閉塞して、ここから冷たい灌流液を流しだす迄の時間が問題なのです。ここまでやってしまえば、後は手術室にゆっくり行こうが、手術室でゆっくりお腹を開こうが、あまり問題ではなくできます。この時間が30分経つとかなり条件が悪くなります。これが私達が大きく脳

死にこだわる理由です。これを行って冷しだしてしまえば、かなり良い状況で保てますし、冷した時間から12時間程度の余裕は十分あります。ですからこの状況がいかにうまく作られるかというのが問題なのですが、特に現場での医療上の問題として、大きく立ちはだかっています。

死体腎移植と生体腎移植、それも死体腎移植は心停止後と脳死後の腎移植というのを分けて利点、欠点をまとめたものがこのスライドです。ここに血縁生体腎移植、心停止後の腎移植、大きく2つに分けます。条件のいい提供とは、血縁生体腎か脳死であって今言ったように心停止の後の問題は様々な大きな欠陥がありますので社会的問題からいえば、やはり脳死は公認されていないということ、非常に大きな問題です。

脳死後の移植は、85%以上はすぐおしっこが出てきます。血縁生体腎もまずすぐ出てくるというところで問題はあります。それから、血縁生体腎の場合には、「6月の半ばにやりましょう」とかスケジュールの調整がかなり可能です。それ

から脳死後の腎臓移植も24時間程度の調整は可能ですから、例えば、今から連絡して今日の夕方に入っていたら、明日の朝、腎移植ということも可能という意味では、かなりスケジュールの調整は楽です。

それに対して心停止の場合には、大体12時間でやらなければいけませんから、患者さんかなり慌ただしいです。我々の態勢もかなり慌ただしくて、必要によっては、移植前に透析をやらなくては、いけないということを含めると、かなり忙しいです。それから移植患者へのストレスという点では、血縁生体腎の場合かなりあります。心停止後は今社会的には認められています。様々な問題からむしろなかなか実現しません。脳死後の腎臓移植の場合は、社会的合意さえ獲得できるのであれば、非常にプラスの方向へ進めると確信します。それから腎臓をもらう患者さんはどうなのかという問題ですが、従来透析患者さんの8割程度が慢性糸球体腎炎と言われていました。現在透析に入る4分の1の方



が糖尿病の患者さんですので、その辺が問題になってきます。又炎症がある様な患者さんは向きませぬ。移植を受けられる患者さんと言ふのは60歳位までということですね。移植を行なう時に十二指腸の潰瘍だとか、肝障害だとか、という人はできません。又本人の腎臓を残したまま行なう事により腎臓が増え過ぎてしまうということもあります、この様な条件をクリアできれば良いでしょう。

## 腎移植体制の取り組み

私達は昭和59年から、北海道地方腎移植センターと結んで活動しています。国立佐倉にセンターコンピュータがあり、実際死体腎が出た時に、コンピュータで移植を受けられる方の選択を行います。まず赤血球の合う方から打ち出されてくる様になってきていますが、問題は、1万1千人もの移植希望患者がいるにも係らず年間死体腎移植が、230位しかないということがあります。昨年8月に死体腎が出ましたが、道内460待つ

それで、通常の大人の場合は、右の盲腸の後ろのところの腹膜の外のところの動脈と動脈、静脈と静脈、尿管と膀胱をつなぐのをやります。おさめる場合は、左に留める場合がありますが小児の場合は、ここに納まりきらず、もう少し高い位置に納める場合もあります。そういう移植が現在行なわれている訳ですけれども、それを支える体制とか、色々な問題は何かかという事を少し話したいと思います。

ている患者さんで一番合ったとしても、半分しか合わないということとが判りまして、一つは札幌で使いましたが、一つは仙台の社会保険病院に送っています。そんなことを少しづつ行なっています。まだまだ大きな輪になっていないと言ふことです。

次に血液型で言いますと、A型が30〜40%、AB型が10%、輸血歴のある人が60%、抗体がある人で血漿交換を行なわなければならぬ人が12%います。年齢別の登

録状況から言えば、30歳代30%、40歳代35%、平均が41歳となっております。地域別に見ると札幌が47%となっております。

私達は、地方腎移植センターとしてどう言う活動をやっているかと言いますと、まず各地方の医療機関に連絡をいたたく様通知票を提出してもらっています。その内容として病院の名前、患者さんの血液型とか悪性腫瘍がないかということを含めた記録を24時間受け入れる体制をとっています。これまで31件の連絡をいただいていますけれども、実現したのは2件ということですね。HLAを調べる登録体制に入ったのは5名で実現したのは2名ということですね。その中で、腎バンクのドナーカードを持つていた方が10名です。しかし、全員提供は実現せずその内半分が、癌、老衰ということで使えなかつた。後の半分は心停止してからしばらくの連絡で、家族が身の廻りを整理している時の連絡だったということですね。

そして、それを支えるものとして現在脳死臨調の中間答申と云うのが問題になってまして、来年第

終答申が出るようになっていきますが、脳死を死として認めないという意見があるんですが、その中で強く言われているのが、生前の本人の意志を明確にする必要があるではないかと言われていますが、腎バンクに登録する際に本人の署名と同時に近親者の方に同意を得ていただいてほしいということなんです。何故かと言いますと万が一不幸にして亡くなられた時にですが、周りの方が知らないという現実しないということ、角膜、腎移植に関する法律というのがありまして、遺族の方の署名がないとできないことから、署名をいただいているのですが、腎バンクのドナーカードの拡大をやらぬことには難関を突破出来ないのが現状です。現在登録カードを持つている方は、1万1千5百名です。全国では25万いますが、登録実現された方が20名です。ということは1万人登録して1名実現するかしんないかということを考えますと、北海道では10万単位で登録者が増えたいと私達が考えている数はいかにいだろうと思えます。

腎提供がありますと、私達の所

へ連絡が来ます。私達の病院では、その患者の年齢等を聞きまして全く話にならないと言うことになれば、そこでお断りしますし、うまく使えそうだと心停止が近そうだと判ると、その患者から血液だけを採血します。この時当然家族の方の了解をいただきます。そして、その血液をタクシーで運びます。道内だいたい6時間あれば送れますので、まずこれを行なうということ。次に何をやるかと言いますと、白血球型を判定して、候補者を選ぶまで、6時間かかります。次に摘出のチームをその病院に派遣します。また一方では、型の検査を行ないます。例えば、北大の患者さんの型と合ったということになれば北大に連絡して北大の方はその患者さんに連絡をとって、患者さんの意志を確認して、移植を受ける確認がとれたら、待機体制。腎臓が出そうになったら入院していただくという形をとります。そして、2つ腎臓があるわけですから、2つの病院で行なわれるということになります。摘出チームは摘出したら、どこの病院に送るか、釧路の市立な

ら釧路へ送ればいいと判れば、そこから送ってしまうという体制となっております。そこでの問題とし

## 腎移植の成績と合併症

ては、発生から摘出までの時間との争いとなる大きなポイントとなります。

が、健康チェックをしっかりとおかないといけません。後は高血圧、糖尿病、小児発育不全といまして、ステロイド(プレドニン)を使うことで骨が伸びなくなってしまうことで、使い方を注意されます。それぞれの頻度は少ないのですが、全体的な患者の管理をきちんとやらないければならないということが、現在の課題となっています。

それで、移植の成績を見ますと1年で93%程度働いているという話をしましたが、腎臓移植というのは提供者がいないと絶対成り立たないことと、2つ目には、拒絶反応を防ぐ免疫抑制剤を長く飲むなければならぬことと、それによる合併症の問題が出てきます。移植直後は、死体腎移植(心臓死移植)であれば100%、脳死であれば15%位、生体腎ですとほとんどありませんが、移植直後急性腎不全が起きる可能性があります。また出血、尿の洩れ等の手術的なテクニクによる問題、それに急性の拒絶反応等の問題等が起きます。それから移植の3ヶ月後に起きる合併症として、一つは、急性の拒絶反応、消化管の出血がありますが、これらについては最近かなり良い薬が出てきて予防できる様になってきました。又ウィルス、カビだとかによる肺炎等がありま

す。この辺を克服しなければなりません。移植後1ヶ月半で退院になって3ヶ月後に1ヶ月1回の通院となりますが、この時期がひとつ大きな問題となります。それから3ヶ月たつて社会復帰した場合、月に1回しか通院してこないわけですが、一つは、10%程度の割合で起きる慢性の拒絶反応、これは現在治療法がないので慢性腎炎と同様に一定期間で透析に戻っていかざるを得ないという問題。それから腎炎が10%程度。移植後に出るという事もありますし、巣状糸球体硬化症とかの出る可能性が10%。透析の患者さんには多いのですが、免疫力を押さえているという点で、移植した患者さんに癌の発生が透析患者さんと同じくらいでいるということ、私自身も移植患者約100例くらい見えています。3例4件の過去を見えています。ですから透析患者さんもそうです

が、健康チェックをしっかりとおかないといけません。後は高血圧、糖尿病、小児発育不全といまして、ステロイド(プレドニン)を使うことで骨が伸びなくなってしまうことで、使い方を注意されます。それぞれの頻度は少ないのですが、全体的な患者の管理をきちんとやらないければならないということが、現在の課題となっています。

このスライドは日本の移植学会に於ける移植の患者さんの死因を表したのですが、81年以前から10年前は、1858例中416例が亡くなっている、約4分の1です。それに対して81年から89年の7年間は、4121例で196例と、数も圧倒的に少なくなってきました。割に少ないことで死亡率も減ってきています。従来多かった敗血症が3割、脳血管障害とか心疾患が多くなっています。88年9月迄に出た移植後の悪性腫瘍で、胃癌10例、胆癌10例、大腸癌3例でています。

我々が行なった成績ですが、35例中17例で5割、兄弟9例26%死体腎2例、最高年齢が68歳で平均50・9歳となっています。○から

我々が行なった成績ですが、35例中17例で5割、兄弟9例26%死体腎2例、最高年齢が68歳で平均50・9歳となっています。○から

我々が行なった成績ですが、35例中17例で5割、兄弟9例26%死体腎2例、最高年齢が68歳で平均50・9歳となっています。○から

我々が行なった成績ですが、35例中17例で5割、兄弟9例26%死体腎2例、最高年齢が68歳で平均50・9歳となっています。○から

Aの移植が10例となっています。

35例中、急性拒絶反応が20回で一人で3回の人も含め一人0・7回、慢性拒絶反応が4回。生存が33例で94%、死亡2例で6%、移植腎生着例が28例で平均2年6ヶ月で再透析が5例、血清クレアチニン値は約1・5以下が大部分です。重篤な合併症としては、消化管の出血で摘出された方が2例いて一人が亡くなりました。肺結核が1例、移植後1年4ヶ月後、腎機能は全く正常でしたが、突如呼吸困難を起こして一週間で亡くなられたのですが、病名は肺動脈塞栓で原因を調べたところ腎臓が3つになったことで、赤血球が増えてヘマトクリットが50を越えている状態で、血管が詰まりやすくなっている状態でした。それが原因かどうかというのはまだ解析しておりませんが、ただ言えることは、肺動脈塞栓とは、生前の診断が3割程しかできないということ、現在に到っています。

移植腎の生着率を見ますと1年で92%、3年で81%、5年で71%となっています。

この中で死体腎を2例経験して

いますが、脳死の判定会議から心停止の期間までに12日と15日かかっています。心停止から腎臓が冷やされる時間は10分です。それから心停止から移植されて血流が再開される時間が8時間と7時間。当然急性の腎不全が起きますから、透析必要とし2人共3回行ないま

## 今後の課題

今後我々はどういうことをしていかなければならないかと言いますと、移植にとつては提供の問題と合併症の問題とどううまくつけるかと3つあります。

提供者の問題に関しては、脳死についての議論が行なわれていますが、私自身今年から移植コーディネーターを始めますが、そもそも移植医とか脳外科医がコーディネーターをやるのは好ましくないというのが現状ですが、ただ、今の我々は政府の方針だとか、お金の出どころがあつて、どうしてもやらざるを得なくなつて今後のコーディネーターをたくさん作っていく為の地下作りという様な意味で活動を始めています。現在週

した。移植後尿量が1、000ccまでかかった日が5日と3日となっています。

次のスライドは死体腎の経過を示したのですが、結論を申しますと患者さんに合わせられる薬がたくさん出てきたということが言えると思います。

2回程度、外に出て色々な病院を廻ることを始めつつありますが、なかなか先程話した問題から提供の問題に関しては、敷居がまだまだ高いのが現状です。ただ、大阪とか東海地区のやり方としては、かなり前例がありますのでその良いところをとつて、北海道でも広めて行きたいということをやっています。

脳死については、正しいと思うが社会では決められた枠内では動けないので、これをどうにか解決していかなければならないと考えています。

もう一つは、組織適合性のことは先程言った様に、HLAなんかもう少しうまくこういう組み合わせ

せであれば、簡単に合わせられるとか、今の様な細かい検査でなくても良いという可能性が充分あるということ、です。

免疫抑制剤については、どんな良い薬が出るのは間違いないこと、今、日本以外で3種類の薬が開発中ということで、その辺のことも大きく期待して行きたいです。

それで、今の移植の現状について話して、今後どうしていくのかということ、考えなければならぬ問題を幾つか提起したつもりですが、現在佐倉病院に12月31日で登録されている死体腎移植を望まれている患者さんは、1万1千8百10名、男性が7、938、女性が3、872人、平均年齢は男性46、女性44・7、透析期間が8・8年と8・7年、登録してから移植するまでの待機期間、男性4・6年、女性4・5年と非常に長くなっているという現実があります。このこと自身移植に携わっている我々としては、申し訳ない数値と感じています。それと長期透析を考えますと、この数値はいへん大きな意味を持つのではない

いかと考えています。

先程言いました様に色々な問題があるのですが、ここ1、2年は非とも今の様な体制を変えていくというか、もっと新しい展望を作れる様な動きをしようということ、現在色々な形の働きかけを強めているところですが、そういう意味では非御理解頂きたいという第1点と、第2点として、一人一人の意志を明確にしようということが言われています。私達医療関係者も腎バンクへの登録が少ないとか、色々な問題を指摘されています、今そのことに関する反省も含めて、新たな運動を展開しています。やはり、腎バンクの登録は見返りのある行為ではなく、全く人間愛による行為ですから、それに関する色々な問題はありますが、是非ともこれを実現して拡大をしていく必要があるだろうと、そういう意味で皆さんの一人でもやって頂ければ、かなり大きく変わってくるのではないかと考えています。北海道の移植もまだまだ遅れていますし、透析患者さんもこれだけで希望されている方も多いという中で、今後もっともつと努

力しなければならぬという決意はありますが、今の状況の中では非新しい活動を展開するべく努力をしていることと、それから、今

色々な新しい体制になってきていますので、今後を期待して、また皆さんの今後の活動にも期待して行きたいと思えます。

# ブレックク便り

## 旭川ブロック

### チャリティー歌謡ショー開催

旭川地方腎友会では、昨年、会員相互の親睦と団結による会の基盤強化とさらには、社会的貢献を伴う活動として「チャリティー歌謡ショー」を実施致しました。

当腎友会では、今年もこの活動を継続して行なうことになり、道腎協、難病連旭川支部協賛、旭川市はじめ市内各透析施設およびマスコミ各社の後援をいただき、10月27日(日)に旭川パレスホテル大ホールにて再び「チャリティー歌謡ショー」を開催しました。

昨年に引き続き過去の活動で経験があるとはいえ、やはりチケットの

売上や広告の集まり具合など財政面での不安が最後までつきまといました。旭川地方腎友会の役員が実行委員として動き回ったわけですが、他の一般会員(透析患者)にもチケットの購入や広告主になっ

ていただくなど多大な協力をいただき感謝しております。また昨年同様、透析患者でプロ歌手の郷田二郎さんとその関係者の方々にも大変お世話になりました。

さて、緊張と不安のうちに当日を迎えましたが、会場は昨年より入場者数が多く、札幌からは岩崎道腎協会長も激励に駆けつけてい

ただきました。また、マスコミ取材記者の姿も見受けられました。プログラムの方ですが、主催者あいさつ、来賓祝辞のあと第一部郷土芸能として羽衣太鼓の勇壮な響きから始まりました。そのあとチャリティー贈呈式が行われ、本日の益金の一部が、昨年同様「旭川市長寿社会生きがい基金」に寄付されました。贈呈式には、旭川市から助役さんと福祉部次長さんが出席され、お礼の言葉をいただきなど大変感謝されました。

その後いよいよ歌謡ショーの始



まりです。市内のカラオケ愛好者の方々が熱唱し、自慢のノドを披露しました。

ひと休みして第二部もカラオケ愛好者の方々の出演で始まり、途中、民謡ショーも入り舞台にアクセントを添えました。

最後に第三部、ゲストコーナーとして市内でカラオケ教室を主宰している先生お二人のプロ級の歌を堪能したあと、いよいよ特別ゲストとして先に紹介した郷田二郎さんがデビュー曲の他数曲を熱唱、アンコールもかかり、会場からは大きな拍手が湧き起こっていました。

## 道南ブロック

# 観楓会

皆様、こんにちは。お元気ですか？道南ブロックからは、鳥居腎友会の観楓会の様子をお知らせします。

観楓会は、10月5日(土)、6日(日)と1泊2日で浅虫温泉へ行って来ました。今回は、はじめての列車

このように第2回目のチャリティー歌謡ショーも会員はじめ、関係者の方々の協力のもと無事終えることができ、ホッとしております。

私達透析患者は、医療費の無料化をはじめ、様々な社会的恩恵を受けております。いつもただ一方的に受けるだけでなく、時にはこのような活動を通じて、万分の1でも社会に恩返しすることは、意義のあることではないでしょうか。これからも、いつも受身でいるだけでなく、出来る範囲で積極的に社会活動に参加していく必要があると思えます。

(報告：藤田勉)

の旅でしたので汽車のキップの手配などに少々面倒がありました。無事にキップもとれて参加者15名で行って来ました。10月5日は、晴れ。気温もまずまずで午後1時半函館駅に集合、1時58分発の海峡列車で一路青森へと向かうので

した。むかしは、青函連絡船に乗って行ったものでしたが、青函トンネルが出来てからは、連絡船は廃止され海峡線の列車になってしまいました。ちよっと函館の人間にとっては寂しい感じがするんですよ。列車の旅は、快調で1時間半もすればトンネルの中、45分間は真っ暗です。途中、吉岡駅と竜飛駅がありますが、そこには、見学コースの列車しかとまりません。私はまだ見学したことがありませんが、いろいろ見る所があるようです。



トンネルをぬけると、そこはもう青森です。地続きになってしまったので本州のような気がしません。風景もさほど変わらず、青森駅に着きました。荷物を持ってホームをわたり、浅虫行きの列車に乗ります。浅虫には、20分ぐらいで着きました。そこから歩いて5分というホテル側の話を信じ、私たちは歩いたのでしたが、しかし、駅よりずっと端の海浜なので15分ぐらいもかかりました。ホテルには歓迎バスがあったそうです。頼めばよかったです。

到着早々温泉につかり、宴会が始まりました。海の幸中心の料理、ビールや酒を飲んだり歌ったり踊ったり、あつという間の2時間でした。二次会では、場所を部屋に移して、これからの話、お互いの悩みなどを打ち明け合って、そして又温泉に入ったり、マッサージしたり思い思いに過ごしました。

このホテルは、3階に大浴場があつて夜景がきれいでした。夜は、波の音が聞こえてとても静かな夜でした。

翌朝は5時頃から起き出して温泉に入りました。温泉で疲れもい



やし、汗も出て朝食のしじみ汁はおいしい、ごはんがおいしい一日の始まりでした。

9時少し前にホテルを出発して向かいの浅虫水族館へ見学に行きました。ここは、身体障害者手帳を持っている方は無料で入場できます。いろいろな魚がいて水槽のトンネルが見事でした。きれいなダイバーのお姉さんの魚のえすけショーもやってみました。あまりゆっくりすぎて、もう少しで汽車に乗り遅れるところでした。

無事、全員青森に着きました。青森では、最近出来た青森物産館アスパムで買い物と昼食をとりました。三角形のシャレた建物で、

## 苦小牧ブロッツ

# 医療講演会開催

11月10日、つくし会主催今年度第2回医療講演会を社会福祉会館で寺田泌尿器科医院院長の寺田先生に講師をお願いして開催しました。新聞等で通じ透析以外の腎臓病患者にも参加を呼び掛けました

ここには青森の物産が一同にそろっています。今年りんごは台風の影響でちよつと高値になっているようでした。

おみやげ袋を何個か持ち、私たちは、函館へと帰路につきました。帰りの列車の中では疲れもでて、皆さん寝てる方が多かつたようです。私も寝ていました。

今回は、列車の旅でしたので、どうしても列車の時間に合わせた行動なので忙しい思いもしましたし、座ってばかりなのでお尻も痛くなりましたが、仲間との楽しい1泊2日、一生の思い出に残るでしょう。

(報告…佐藤真美子)

11月10日、つくし会主催今年度第2回医療講演会を社会福祉会館で寺田泌尿器科医院院長の寺田先生に講師をお願いして開催しました。新聞等で通じ透析以外の腎臓病患者にも参加を呼び掛けました

問題では、重曹透析液の身体に与える影響、ダイヤライザー(透析膜)の質が良くなったこと、膜の種類が変わって来て生体適合膜が出てきたこと。次に患者側の条件として水分の増加、活動量によって毒素の変動があること、血流量は1分間に200ccとれることが理想であること。体重のコントロールと心胸部比と血圧については、血圧を自宅で測ること、自覚症状として食欲がなくなった時や夜中に咳が出る、透析後、足がつる時等は要注意です。

1時間程のお話の後、大変多くの質問がありました。「透析の次の日に足がつって困る」と言う質問があり、足がつるのは、透析前は

## 滝川ブロッツ

# 秋期研修会

恒例になっていた秋期研修一泊旅行の参加者が年々減少し、どうしたら多くなり、親睦が計れるかが新年度の課題でした。数多くの役員会を開き討議を重ねてきた結

ナトリウム濃度が高いのですが、透析後のナトリウムの変動でけいれんが起ころるので、あまりひどい時は、体重を上げてみて様子みるのとことでした。「心胸部比が小さい」(40%)と言う質問では骨格、体格の大きい人は心胸部比が小さく計算され、個人差があるとのこと

先生は、専門用語を使わず、わかり易い言葉でお話しして頂きました。時間がオーバーするほど質問があり、大変盛会でした。終りに御多忙の中を私達の為に講演していただきました寺田先生に心より御礼申し上げます。

(報告…伊藤粹裕)

果、日帰り旅行形式で、費用も安くみんなが参加できることを目標に、事務局に一任、ご苦勞をお願いしたところ、9月15日、旭川ニュー温泉・雪の美術館見学と決定しま

した。参加者を募集したところ、43名と多くの参加者(例年の倍)がありました。誠に今までにない画期的なことです。

いよいよ当日、晴天に恵まれ2、3日前までのぐずついていた天候も、会員の精進が良かったのか当日は時々雨の予報もどこかに吹き飛び、からりと晴れてくれました。

腎友会滝川クリニックを、9時出発で会員は順調に集合していましたが、点呼すると一名たりません。少し待ちましたが一向に姿が見えません。会員の家に電話するとか何かの手違いか、乗車場所違いで結局15分遅れで出発。赤平・茂尻・芦別と会員を拾っていくことに。しかし、またもちよつとミス。

幹事が会費を徴収中に、ある会員の乗車場所を見落としてしまい、また逆戻りすることになり、ここでも時間のロス(25分の遅れ)となり前途多難を思わせました。しかし、以後は順調に進行し、芦別より裏街道を通り抜け一気に神威古潭にできました。途中、真っ赤になった林檎がたわわに実り、秋の風情が感じられました。連休で国道12号線は車の量も多く、めざす

雪の美術館に予定より少し遅れの10時55分に到着しました。

行楽日よりで意外と観光客が入館していました。まず始めに螺旋階段で地下におり、途中の廊下には雪景色の絵画がいっぱい。回廊を通ると、毎日毎日作り替えるという見事な氷の造形があり、次には雪の結晶の顕微鏡写真。これは先人が毎冬、大雪山系の天女が原に雪洞を作って撮影したそうです。

その他、スノー・クリスタルミュージアム、雪の映像室、シアターと珍しいものばかり。油彩の天井、雪のステージでさまざまな演奏会が開かれる音楽堂など見事なものでした。天井ドームは、7人の画家が精魂こめて、28、000号のキャンパスに描いた「北の空」これには目を釘付けにされました。私たちの身近な雪がこんなに芸術品となっているのは驚嘆させられました。約1時間の見学も、あつという間に過ぎて、雪の美術館を後にしました。

旭川ニュー温泉に到着し、挨拶もそこそこに会食となりました。透析仲間でありながら曜日が違うため、顔も名前も分からないので

氏名、透析歴、出身地、曜日等を自己紹介することに。実にさまざまな透析歴で、上は20年から浅くは3か月までユーモアのうちに終わりまりました。その後は自由時間となり、温泉に浸かる人、サウナに入る人、三々五々歓談する人、各人思いのままを過ごすうち、あつという間に帰る時刻となりました。ホテルの玄関前で全員で記念写真を撮り、15時ちょうど帰路の途に。

## 十勝ブロック

# 道東6地区交流会 懇親会開催される

平成3年10月26日(曇り、すう病院前に集合して、午後2時出発。4時間の透析を終つての会員、十勝腎友会会員家族一同(40名)マイクロバス、ワゴン車2台に分散して乗車。阿寒ロイヤルホテルへ向かって走る。各病院(5病院)車中で会長木村幸雄氏の挨拶を始め役員の自己紹介をし、ビンゴゲーム、ホテルまでの到着時間当て等

婦りは順調に進行し会員の家近くに停車して頂き、往路よりは余計時間を費やしましたが、16時50分腎友会滝川クリニックに事故もなく、具合の悪くなった人もなく無事帰ることができました。これも幹事を受け持って頂いた、浜口看護部長、宮川主任、初めスタッフの皆さんの献身的な協力の賜物と、心から感謝申し上げます。(報告：渡辺節生)

全員に景品が当たり、楽しくバスの旅。はしゃいでいるうちにホテルに到着。午後5時10分。到着時間ゲームに当たった人、はずれた人、さまざまの顔が写る。ピタリ賞、森喜久子様、新倉義太郎様、晶正吉様の3人が同時ピタリ賞。素晴らしい景品を受け取って大拍手。阿寒湖畔ホテルに到着すると腎友会(北見)の役員が迎ええホテ



ルロビーへと案内される。部屋割番号と、キーを片手に各部屋にと吸い込まれていく。風呂に入る人、バスの疲れをいやしながらお茶を一服。温泉風呂は透き通った温泉の湯。外には露天風呂があり北海道の阿寒湖畔ならではの情緒気分。何回か湯船につきり、すっかりお腹の方も減り6時から大広間での交流会が約100名の結集。御膳は見事に並べられ、順次席に付く。全員が揃ったところで北見腎友会、会長土屋武夫氏の司会で始められ、上田氏の挨拶、網走腎友会、会長

原田幸一氏の乾杯の音頭で宴が始まる。ホテルの御主人が終始司会をつとめ、なごやかにビンゴゲーム、ジャンケンカラオケ、時間のゆるす限りの交流会の宴が続く。だれ一人席を立つことなく、最後まで懇親会に宵知れていた。カラオケに出る人達は、のどに自身がある。大変に上手である24人がマイクを通して楽しませてくれる。8時30分終了。各部屋へと分散する。その後、腎友会会長会議を開く。各部屋の参加者は風呂に入る人、部屋にて5、6人の人達で病気に關する話をしていく。

又、外に出て大きく羽を伸して午前様の帰宅。翌朝、朝食が7時30分より大広間で開く。昨夜の出来事の話で賑やかである。

朝食後、ゆっくりと部屋で休み、帰りの支度をし、ロビーで出発を待つ。お土産店で買物する人、コーヒーをゆっくり飲みほす人、皆様の顔は明るい。大きなコップに氷を入れ口に頬張って満足顔。9時40分全員が揃ってホテルを後にする。参加者は皆んな元気で帯広へと向かう。

車中でビンゴゲーム、期待の到

着時間当てゲームに挑戦。バス走行中家族会員で旅行の感想を話しする。決意の話、又、旅する時を期待して心踊る話が多かった。又、旅行しない人をさそい共に参加する事を約束された会員もいた。その人その人の感想は身にせまる話で全員が喜んで次回を期待する。会長木村氏の話で切り。

到着となり、ゲームの続きで、ピタリ時間の当てた人、加藤康子さん。「景品よりもズバリ当る気分の良さ」当った加藤さんの一言が本当に嬉しそうだった。本人は大

## 釧路フロック

# 浦幌留真温泉にて

全道各地の同じ病に勇敢に立ち向かっている仲間の皆さん、お元気ですか。私達釧路でも、毎日病氣や仕事、家事などに精進しております。

さて、釧路では今年も秋の一泊旅行を9月28日く29日に実施いたしました。数年前にも行ったことのある浦幌留真温泉に、36名が参

手を広げて、元氣なところを見せしてくれた。車中の全員が自分ながら喜び大拍手する。

すとう病院前に到着。元氣な姿を確認し又の旅を期待し、全国大会に共に参加することを約束し別れを惜しむ。各自己が家へと急ぐ。

レクレーションは回を重ねることに参加者の協力が増していることが関係役員の願うところですが、本当に皆様御苦勞様でした。

(報告…佐藤武夫)

加して行ってきました。例によって車中のクイズ・ゲーム、温泉ではカラオケをたっぷり歌うなど、とても楽しい旅でした。ただ、食事にはちょっと不満はありましたが……。

ところで、私達釧路地方腎友会はこのようなレクレーションを年に3回く4回実施しております。

目的は会員相互の親睦を深めるということとは言うまでもないことでしょう。しかし、それだけではありません。このような行事に参加することで、他の元気な人に接することによって、負けてなるものかという気持ちも湧いてくるのです。さらには、お互いに顔見知りになることによって、請願活動やキャンペーンなどの活動がスムーズになるということがあるのです。時々、「腎友会はレクレーションをするための会なんじゃないの」という声を耳にすることがありま

す。そういう人は、前に述べたような目的がわかっていない人だと思えます。お互いに顔も良く知らない者が活動を呼びかけても、その成果はあまりあがらないと思えます。

よく知っている者同志が声をかけ合うからこそ、一つの強い力となって会活動が前進するのだと思えます。このように、一つの行事に参加することによって、他の人と知り合い、励まされ、仲間意識

が育っていくのだと思います。

医療問題ばかりを追求するのが

会の活動ではないと思えます。

以上のようなことを考えて、

日夜がんばっているのです。

皆さんの会はどうでしょうか。

え？もうやっている／それは失

礼いたしました。

お互いに、病に負けず、これか

らも一日でも長く生きぬこうでは

ありませんか。おわり

(報告：釧路地方腎友会事務局)

## 夕張ブロッコ

# じん臓病友の会が 総会兼ね平取温泉で 交流の集いを開く

夕張市立病院で腎臓の透析を受けている「じん臓病友の会」が9月29日平取町の町営平取温泉で日帰りの行楽を楽しみました。

透析を受けている患者さんたちは、日常定期的に病院に通って、一回5時間くらいの時間をかけて

人工透析を受けています。

健康な人の場合は尿として排泄

される体内の老廃物が腎臓に機能

障害を持っている人の場合は、そ

の働きができなくなります。

ですから、この体内の老廃物を

人工透析で血液を浄化させなければ

ばなりません。長い時間や日にちかけ、遠出することがなかなか困難な患者さんにとっては、この行楽は年一度の会員の交流であるだけでなく、健康を守っていく活動をすすめるため大事な意志統一の場面でもあるのです。

台風が通り過ぎて秋晴れが戻ってきた日曜日、会員は各停留所からバスに乗って出発しました。

平取温泉は町営ですが、施設も整っていて岩風呂の広い温泉のほか、テニスコート、ゲートボール場や最近人気のパークゴルフ場も18ホールのコースがあり、若い人からお年寄りまで楽しめる温泉です。一行はさっそく入浴して汗を流したあと、同行した透析担当の

横山医師、森谷たけし市議会議員を囲んで会食をしながら、闘病生活の体験や病院に対する要望などを話し合い懇談しました。話の中では、施設の充実に対する要望や、

由仁など周辺の町などの患者も迎えられるような中核病院としての体制への希望などが出されました。

また、来年は5月に札幌市で腎臓病患者の全国大会が開かれるので、ぜひ会員全員が参加して交流を深



めたいとの話し合いが交わされました。

森谷たけし市議は、こうした会員の要望などの実現に、ぜひ協力していきたいとのことで、厳しい闘病生活の会員を激励しました。

## 岩見沢ブロック

### 秋期レクレーション

去る10月13日に恒例のレクレーションを新十津川公園にて行ない

ました。今年も日程・天候などに恵まれず、参加者は会員・家族含め大人8名、小人2名となり、役員としては少し反省する所となりました。しかし、参加者はスポーツセンターでのミニバレー、バトミントンにと気持ち良い汗をかいていました。



最初にミニバレーをしました。日頃このようなスポーツをする事がないせい、あれこれ心配する面がありました。ゲームが始まるとみんな熱中していました。ゲームが終わると、みんな肩で息をする有様、やはり体力がなくなっているとみんな苦笑い。

やはり日頃体を動かして体力をつけなければいけないとみんな痛感したようです。

さて、一汗かいた所で、ちょうど昼食の時間となり、場所を移動してジנגスカンに舌鼓をうちました。やはり体を動かしたせいか、食事がとてもおいしく感じられたようで、注文した肉はほとんどなくなり、ほんの少し残っただけでした。みなさんよく食べ、よく話をしていました。

## 深川ブロック

### 生体腎移植第1号

全道の仲間のみなさん、お元気で過ごして下さい。10月6日の腎移植推進月間運動、そして来春5

月の全腎協大会が札幌で行われると言う事で、道腎協の役員さんは勿論、私達ブロックとしても何となく気持ちだけが忙しく感じる今日このごろです。

さて、私達の腎友会で生体腎移植の第一号の患者さんがおります。Fさんと言って男性33歳の方で、

食事が終わり、又々場所移動をして温泉に入る事となり、帰りの集合時間まで各自思い思いにお風呂に、サウナにと足を運んで、やはり体重増加を気にしている様でした。たまにはこういう体を思いきりつかうスポーツも良いものだと思います。

また、来年は参加者が多数出る様にと役員同志話し合い帰路に立ちました。(報告・庭田)

母親の腎臓提供を受けて、11月7日に札幌市立病院の平野先生の執刀で行われたようです。

母親は、年齢の割りには腎臓の機能が活発で、若々しく患者の息子さんに大変適合していたようです。現在は尿もたくさん出て、体のカユミも取れて順調のようです。

始めは私達も大変心配しましたが、でも手術も無事終わり、親子共々経過も順調であると報告を受



け、今は病院の先生を始めスタッフ、そして会員一同、自分の事のように喜んでおります。Fさん頑張れ、そして一日も早く元気な姿を見せてほしいと願っております。そして私達は、腎提供者への呼びかけの運動をさらに強化する事を心に感じた次第です。

さて話は変わりますが、秋の小旅行に新十津川のグリーンパークへ、9月22日に先生を含め26名で行きました。遊歩道を歩き落ち葉のキノコを見つけて取った人等、また温泉に入り、美味しい料理を食べ



て、カラオケ等を唄って時間一杯楽しみました。

今年の忘年会も12月の1日に決まり、今は準備に追われています。今年は3周年記念と言う事もあって、生バンドを頼み、今から楽し

## 網走ブロック

# 6 地区交流会

10月26、27日恒例になりました6地区交流会が阿寒で開催されました。今年の幹事は北見腎友会で



みにしております。

その後は難病連のしめ飾りの販売に全力をそそぎ、今年のしめくりにしたいと思っております。

(報告・鈴木春美)

私達網走オホーツク腎友会からは9人の参加です。

6地区から多数の会員の方々が参加し美味しい食事そして宴会が開かれ、恒例のビンゴ、カラオケ大会と続き楽しい一時を過ごさせていただきました。

(ちなみに私も出場させていただきました。ぐつとシブクバスタップを熱唱させていただきました。)

来年は網走が幹事になりましたので、又会員の皆様に楽しんでいただけるような企画を考えますので多数の参加をおまちしています。(報告・オホーツクの貴花田・清水)

## 国会請願署名

### 募金のお願

患者会員の皆様はお忙しい中、国会請願署名・募金活動の取り組みご苦労様です。

皆様から集められた署名は、来年3月末に国会から参加する100名以上の会員がそれぞれ地元選出の衆・参両国会議員に紹介議員になって戴き国会に請願するものです。

毎年この請願署名で通院透析中の食事の無料化や、人工腎臓の増設、又エリスロポエチンの早期認可等。沢山の成果をあげています。

募金は各地方腎友会の腎移植キャンペーンや各種行事の貴重な財源になっています。道腎協では、腎疾患総合対策実現の為の行事などの各種活動費に使われています。全腎協では国会請願行動への全国の参加者の旅費、署名用紙の印刷などに使用しています。寒さが厳しくなってきましたので、お体に注意され積極的な取り組みをお願いします。

## 海岸バスの旅

宮城 金一（十勝）



平成3年8月25日(日)夏最後、とう病院患者会を中心に事務局の佐藤武夫さんと運営委員の斉藤洋子さん、私宮城とで相談し海岸バス旅行の計画を立てて、参加者の募集をしたところ、患者さんと家族の方合わせ(沼田孝子さんご夫

婦、小西義光さんご夫婦、伊藤次男さんご夫婦)20名の参加がありました。

その日は天候も良く快晴で、みんな生き生きした顔でバスに乗りこみ、すとう病院前を午前9時に出発。マイクロボスは帯広からエリモ岬へと走る。バスの走行中、患者会(相談役)の森茂さんにご挨拶して戴き、続いて運営委員の斉藤洋子さんが「家族会員の皆様にご協力して頂き一緒に旅行することが出来るのに感謝申し上げます」とお礼の挨拶。

その後ゲームに入り黒田進さん(幹事)も一生懸命にお手伝いをしてくれてビンゴゲーム対向車台数当てクイズ等、1位と20位全部の方に色々な豪華な景品が当たり、それを手にして楽しくバスの旅。1時間半くらい走ると広尾町の海

岸が見え始める。空は澄みきって青く、海の色はあざやかに浮きでて素晴らしい景色。だんだんと汐の香りがしてくる。

広尾町市街地から海岸線をすこし行くと、フンベの滝という素晴らしい良い所がある(音調津海岸)ここでバスを止め一時休息する。バスから降りると次々と歓声が上がった。

透析で病院通院生活の毎日が続く、なかなか個人では遠くの旅は出来ず、同じ患者同志が助け合いながらの旅は、心と気持ちが合うために楽しく旅行が出来ると思えます。

車椅子で参加された小西義光さんは、体の自由が利かなくなったために、5年外には出る事が無かったそうです。洞爺湖での難病連全道集會に思い切つて参加してからは、

今では自信がつき今回のバス旅行に喜んでご夫婦で参加して下さいました。だんだんと体に自信がついて力がつき丈夫になり元気でみんなと一緒に行動が出来るのです。自分の気持ちで弱くなってなかなか行動が出来ない精神的に負けているのでは、体力が付かず思い切つ

て同病者と一緒に旅をする楽しさに参加されると面白いです。

さて、この辺で景色の良いところを背にして全員で写真をとる。滝のそばに行き、冷たい霧の水を頭からかぶり、冷たい水を喉に通しうがいをして、暑い太陽のもと綺麗な空気を胸一杯吸って命が生き返った感じがする。ゆつくりあたる景色を見た後、名残惜しくバスに乗り、エリモ岬を目標に走る。照りつける太陽に海はキラキラと輝き、反対側の山は緑色に反射されてくる。バスに揺られてお腹も減り、大きな石陰にバスを止めて昼食。この年は風が強く一部の人は石陰にかくれて外で、一部の人はバスの中での食事でした。おいしい食事が終わり、海を後にして今度は晩成温泉へとバスは走る。

広尾町市街地の少々外れから東方面に30分位走り温泉に到着。一安心。温泉に入る人、ロビーで休む人、2時間位休んでから外の広場に出て冷たく冷えたスイカを、ボックスから2個取り出して食べやすく切り、全員で忽ちのうちにペロリと胃の中へ、普段注意して

## 一般投稿

口にしないスイカは、この時とばかり遠慮無くきれいに食べる。あちらこちらの景色を見終えてバスに乗り、その場をはなれ忠類村のナウマン象記念館へ到着。見学し

# 私の半生記 ④

佐藤道美(室蘭)



風邪を引いたかと思われた父が僅か2〜3日床に伏したただけであっけなく、正月の3日に58歳で母の所へ行ってしまう。

茅沼炭鉱へ来て間もない父の葬式は、交通の不便な時代でもあり親戚の一部と、隣近所の人達だけの寂しいものでした。

て帯広へ向かう。

皆さんニコニコ元気な顔で、ゲームで戴いた沢山の景品を手に次回も旅行を約束して、すとう病院前でお別れし解散しました。

その葬式に学校を休んでばかりいた時の悪友が、たった1人で線香を上げに来てくれました。

私と同じ新制中学1年のN君は、親戚の人達と一緒にいる私には目で一寸合図をしただけで、親戚や近所の人達にキチンと挨拶をして香典を供え、線香を上げて悠々と引き上げたものでした。私は只々吃驚するだけで、やつは大人だなあと感心するだけでした。

私はきつとポカンと口を開けていたのでしよう。姉にほら道美お礼をと言われてあわてて後を追ったものでした。

その後H君との音信はありません。きつと良い親父さんになっていくことと思います。

私たちが兄弟は父が亡くなったので茅沼を引き払う事になります。

3人はそれぞれ私と一番下の弟は奈井江の姉の所へ、すぐ下の弟は兄が世話になっている室蘭へ行く事になり、兄弟4人がそれぞれ2人づつ室蘭と奈井江の姉の所に又々厄介になることになりました。

お世話になった茅沼の姉一家とおわかれです。姉はもとより亡き義兄の親戚にもずいぶん迷惑をかけ、お世話にもなりました。

茅沼へは兄弟3人で3月の雪空の下を歩いて来たのですが、茅沼を出る時は多少の荷物もあったせいか馬鹿でした。寒さの厳しい1月上旬のことで、その日もやつぱり吹雪まじりの天候でした。

シャンシャン、シャンシャンと櫓を引く馬の鈴の音を聞きながら首をすぼめて吹雪の空を見ていると悲しさと言うか、寂しさと言うか、空しさと言うか、なんだか解らないけどジワーと胸の奥の方から湧いてきて又何にも見えなくなつたものでした。

奈井江に着いたのは夜の何時頃だったでしょうか、奈井江の姉の家にも小さな子供が2人おられます。そこへまた2人厄介になる訳です。学校も6、3、3制が始まったばかりで、何処でも校舎が足りず小学校への間借り学習です。炭鉱の子供達の中学1年は奈井江市街の学校で、2年からは炭鉱にある学校に通います。中学1年の私は当然市街の学校です。

茅沼より都会の？奈井江にも悪がいました。茅沼よりスケールが大きいと言うか、洗練された頭腦的な悪でした。取っ組み合いの喧嘩でチョンという訳にはいかなかったようです。

丁度、新歌志内炭鉱の学校にいた先生が奈井江の学校におられ、数学を教えていました。やあ佐藤君大きくなったなあ元気でいたかなんて教壇から大きな声をかけたものでした。私は顔を知っていましたが担任でもなく教わったこともなく、ただ何となくハイと答えただけでしたが、この一声のせいで悪達もセーブしてくれたようでした。

2年生からは炭鉱の学校です。

此処の悪はおなじ悪でも可愛い悪ばかりで、さして苦にもならなかつたようです。

畑作をするにはまだ早い春も浅い風の強い日に、炭鉱の社宅の裏にある農家が火事になったのでした。野次馬には対岸の火事です。それとばかりに群がって来ます。

火事は派手に煙はあげたものの、大したことは無かつたようでした。火事も落ち着き野次馬は名残惜しそうに帰ろうとした時、今風の寅さんよろしく、背広を着て(當時の炭鉱で背広姿は珍しい)帽子をかぶつた「お兄さん」が来たもんだ、皆がそつちを見ていると、一陣の風が吹き「お兄さん」の立派な帽子をコロコロと転がして行きました。止まった所が悪かつた。農家の人が大きな穴を掘り、そこに肥料(人糞)を溜めてあります。上面は乾いて固くなっているのです。丁度そこで止まったものでした。「お兄さん」はヤオラ傍にあった豆の手の竹の棒を取り、溜池の端まで行き帽子を取ろうと必死です。竹棒が帽子を引つ掛けヤッタと皆が思った時、足をすべらせズブリと革靴諸共に溜池に入ってしまった、

帽子も竹棒で押さえた形になり、これもあえなくズブリです。肩で風を切つて来た「お兄さん」の顔は気の毒で見ていられませんでした。一張羅の背広も帽子もオジャソです。その後その「お兄さん」に運が付いたか付かなかつたかは聞いておりません。

勉学の事はさつぱりでこんな事しか思い出せないなんてサツパリですが致し方がない事ですハイ。夏休みに宿泊研修?に石狩の浜に行つた時のことです。ボンボンと焼玉エンジン付の大きな伝馬船のような舟に乗り空知川を下り石狩の浜に着き、近くのお寺に泊まります。当時は各人がそれぞれ自分の米を持参したものです。

御飯やお采はお寺で炊いてくれ、大きな入れ物で所々に置いてあります。自分でよそつて食べる訳ですが、大勢で食べると言うことは、こんなものかと吃驚しました。普段教室では優等生みたいな顔をしていても、餓鬼みたいになる者もいれば、普段全然目立たない者でもテキパキと皆をリードして行く者も居ると言うのが、大勢の生徒だけで食事して見て始めて分かつ

たようでした。

その他の研修の事は帰りの印象があまりに強すぎたので全然覚えていません。(何を研修して来たのやら)帰りも行きと同じくボンボン舟で川を遡つて行く訳です。あいにく雨が降つて来ました。どの位来た頃でしょうか、あつ仏さんだと船頭さんが言うが早いか舟は大きく旋回して対岸に向かいます。岸辺にはうつ伏した男の子らしいのが浮かんでいます。水膨れになつています小さい子のようです。川蟹が数匹その上に乗り食べているようです。船頭さんは舟の脇に死体を結わえました。顔は見えませんが、また舟はボンボンと川上へ向かいます。私の胸はドキンドキンと鳴っています。そんな事は無いとは思ふけど、弟が川遊びに行つて溺れたんではないだろうか、背格好が似ているなあなんて、悪いように、悪いように思ひは行きま

す。夕方家に着くとブーンと線香の臭いがします。姉の家には仏壇はありません。ああやつぱりと思ふと腰が抜けそうでした。姉は普段と同じ顔をしています。線香臭いと言うと蚊が出そうなので除虫

菊を焚いていたというのです。たらいに石炭の灰を入れ、ぐるぐると溝をのの字に作り、その中に除虫菊の乾燥した物を入れモグサの様に火を付けていぶしていました。やれやれという溜め息をつきました。炭鉱の風呂は大きなものです。坑内から上がり真つ黒な顔のまま着替えを持って風呂へ行きます。姉には小さな子供が2人います。下の子はまだ赤ん坊です。姉は子供2人を同時に風呂に入れるのは大変です。そこで赤ん坊を先に入れてから、上の子と2人で入るのです。私が赤ん坊を背負いに女風呂へ行くはめになります。

中2の私はまだウブだったのか、頭と同様に身体も遅れていたのか、それ程女風呂に抵抗がなかつたようです。やつぱり異様な感じはしました。同級生の女の子に会つても、アラどうしたのってな顔をして、生まれたままの姿で珍しい所で会うわねと言つた調子で何気なく湯舟の方へ行く子もいれば、アラ何さ男のくせにこんな所に来

て嫌らしい、と露骨に顔に出し、前を隠して行く子もいました。いくら40年前でも中2は中2で

すよね。早熟な子と奥手の子の違いだったでしょう。

それから1、2回は行っただけで、その後は行かなくて済んだようです。中学2年も終わりの頃、もし高校へ行く気があるなら、高校

## 子持石の由来

### 須合清道(札幌)

の地元で、中学で3年生の勉強をした方が良いということ、高校へ行きたいと思っていた私は中2を終えると、お世話になった奈井江の姉の所から、室蘭の姉の所へ行き又々厄介になることになりました。

静かで美しい田園の続く新十津川町に、この世に私の命を授けて



下さった神様が鎮座しております。歴史の重みを感じさせながら、ここ出雲大社教新十津川分院があります。

思えば今から60数年ほど前、私の父、須合清と母タマの間には、結婚後二年間、子宝に恵まれなかった。日頃、飲み友達であった、出雲大社教新十津川分院の神官5代目、藤原忠光先生にこの事を相談すると、子供が授かるよう神様に願をかけてあげよう」と言って21日間心身を清めて願かけをして下さいました。願が明けた日、神様の啓示があり、男の子が欲しければ大きな石を、女の子が欲しければ小さな石を供えるようお告げが

ありました。父は、人夫を使って、ピンネシリの山附近から馬車で大きな石と小さな石を運んできました。大きな石には、祖父の名前で奉納還暦記念 須合銀四郎 昭和6年9月15日 子持石 と刻んで奉納しました。一年後、私が生れ、4年後に妹が生まれました。私達は、兄妹の二人きりです。清道という名前は、藤原忠光先生が

## 感謝の日々

### 盛山レイ(小樽)

名付け親です。出雲大社教新十津川分院の神殿に近づくと、向かって右側に小さな林があり、その中に60年の歳月を重ねながら大きな石が、手を清める場所の後ろの丁度イチョウの木の前に小さな石が、そっとコケむして現存している。

1991年10月1日 記



く想い出すのです。

透析を受けて4年数ヶ月間、大変お世話になりました小樽第二病院を後にして、北野先生の御紹介下さった札幌中央病院の伊黒先生の下に腎移植を受ける為、兄と共に入院したのです。

秋も深まり、私達の目を楽しませてくれて居た紅葉もいつの間にか、その美しい姿を消し、あとは、きびしい冬の訪れを待つばかりの今日此の頃ともなりますと、私は昨年(平成2年)の11月を懐かし

60歳を過ぎる迄ずっと健康で居てくれた兄は、妹の私の為に一大決心をしてくれたのです。兄夫婦の暖かい愛に支えられ、又病院の先生始め看護婦さん方のお励まし、そして家族の理解等、とても



言い尽くすことの出来ない程の皆様に對する深い感謝の気持ちを抱きながら、私達は、先づ2週間の検査を受ける為の入院となりました。

提供してくれる兄のA B O型という赤血球の血液型はO型、私はA B型ですが、どなたも御存知の様に全く同じ血液型でなくても、O型の人は誰にでもあげられ、A B型の人は誰からも貰えますので、問題はなく、またH L A型とよばれる白血球の血液型というのがあるて、拒絶反応は、このH L A型の違いで起こるのだそうですが、兄と私は幸いにも、この組織がともよく適合したのです。

検査では、先生から色々とお話を伺い、腎機能検査を始めとして手術に必要な一般的な検査をすべて受けました。体全体の機能をくまなくチェックしていただきました。

手術に関しましては、先生始め医療スタッフの方々にておまかせし、何の不安も心配もなく臨むことが出来ました。手術後もすべて順調で、日々の体の変化には目を見張るものがありました。食事

制限は勿論ありませんし、食事もとてもおいしいのです。この点も腎移植の大きな利点なのですと先生がおっしゃって居りました。

一番つらかったことと言いますと、術後3日間絶対に動いてはいけないことでした。痛みは殆どなくとも体を動かすことが出来ないのは本当にづらいものですね。

いただいた腎が、きちんと働いて自由に生活が出来ると言う大きな期待と希望を持って、じつと耐えることが出来ました。

入院中は優しい先生、看護婦さん、病院長の方々に何と沢山のお世話になったことでしょう。

お陰様で兄は術後2週間で無事退院致しまして、現在元気に働いて居りますし、私は3ヶ月で帰宅して今は月一度の通院迄になりました。貧血も回復し、ヘマトクリット値もずいぶん上りました。勿論、拒絶反応や移植腎を大切に守る為の注意と、自己管理は非常に重要なことは言うまでもありません。

透析で十分管理された状態であれば、殆どの方が腎移植を受けることが出来るのだそうです。移植の年齢の目安は、提供者が70歳位、

受ける方は65歳迄と言われて居ります。

透析を受けられ、将来腎移植を希望なさって居られる方、どうぞチャンス到来迄希望を失わず頑張つて居て下さい。

これ迄元気で居てくれた兄、その深い愛と勇氣に心からの感謝と敬意を表しつつ、この原稿を終えたいと思います。

(平成3年11月初旬)



## 年末・年始の

### 休業のお知らせ

平成3年12月28日

～平成4年1月4日

## 編集後記

■先日、小雪のちらつく中ウトナイ湖まで写真を撮りに行って来ました。寒くてガタガタ体がふるえました。

表紙の写真がその時のものです。

スタッドレスタイヤが減るので早く雪が積もれば良いですね。

(永田)

■今年の異常気象を世間では、エルニーニョ(神の子)と言っている。こういう年は暖冬と言われるが、今年の雪はどうなることやら？

(川村)

■寒い冬の間は、どうしても運動不足に成りがちです。何か室内で出来る運動を考えて見てはいかがでしょうか。

(村本)

■今年もカレンダーが残り1枚となりました。皆様は今年の運はどうでしたか？

いよいよ来年は、全腎協総会が北海道札幌市で開催されます。道腎協では、役員一丸となつて準備しています。是非沢山の会員・家族の参加をお願い致します。(堀井)

## ブロック事務局所在地一覧表

会 名	〒	住 所	電話番号
札幌腎臓病患者友の会		札幌市東区北	
小樽後志地方腎友会		小樽市	
旭川地方腎友会		旭川市	
稚内地方腎友会	097	稚内市中央4丁目11番6号 市立病院 透析室内	0162-23-2771
留萌地方水無人腎友会	077	留萌市寿町1丁目 市立総合病院 透析室内	01644-2-1500
道南腎臓病患者連絡協議会	041	函館市美原2丁目13番8号 函館メディカルビル 鳥居泌尿科医院内	0138-46-5657
苫小牧つくし会		苫小牧市	
室蘭地方腎友会	050	室蘭市東町2-1-19 室蘭市障害者総合福祉センター内	0143-45-6849
腎友会滝川クリニック透析者の会	073	滝川市有明町2丁目4-45 腎友会滝川クリニック 透析室内	0125-24-2125
十勝地方腎友会		帯広市	
釧路地方腎友会	085	釧路市川北4-17 身体障害者福祉センター内	0154-25-2012
北見地方腎友会		北見市	
オホーツク腎友会		網走市	
紋別地方腎友会		紋別郡遠軽町	
夕張腎臓病友の会		夕張市	
岩見沢腎友会		岩見沢市	
江別腎臓病患者会	069	江別市野幌町代々木町81の6 溪和会江別病院 透析室内	011-382-1111
浦河地区腎友会	057	浦河郡浦河町築地1丁目 浦河町役場内	01462-2-2311
根室地方腎友会		根室市	
千歳腎友会		千歳市	
深川腎友会	074	深川市5条6番10号 深川市立総合病院 透析室内	01642-2-1101
北海道腎臓病患者連絡協議会	001	札幌市北区北35条西5丁目1番10号 AMS南麻生308号	011-747-0217
全国腎臓病患者連絡協議会	171	東京都豊島区目白2-38-2 紫山会ビル	03-3985-7760



clinical foods

# 森永低リンミルクL・P・K

—— 使いやすく、飲みやすいミルク ——

腎機能に障害のある方(特に透析患者の方)に適しています。

(低リン、低カリウム、良質な乳蛋白質、  
カルシウム、鉄増強)



●お問い合わせは、森永乳業(株)札幌支社栄養食品販売課  
TEL011-865-2821

※ご使用は専門医のご指導に従ってください。

## 低リンミルクL・P・Kを利用した献立

その③

**ホワイトエッグ** .....和風のお料理でも洋風でもピッタリ!  
低リン食の一品として、加えてみて下さい。



材料一人分

卵	白	1コ分
低リンミルク		10g (1/2本)
豆	腐	20g
おろし人参		5g
長ねぎ(みじん切り)		1g
油	(焼く時)	少々

← ゼーンぶ、混ぜて、  
焼くだけでOK。

- ★お正油をかけて、そのまま!
- ★サイの目にして、サラダの中に!
- ★フルーツシロップやジャムをかけて、デザートとして!
- ★ハンバーグをはさんで、ハンバーガー風に!



## 低リンミルクL・P・Kを利用した献立

その④

**ヨーグルト風ドリンク** .....低リンミルク用コップでシェイクしましょう!

材料一人分

低リンミルク	20g (1本)
水	70g
レモン果汁	15g
はちみつ	10g



コップに、低リンミルクと水を入れ、よく混ぜレモン汁とはちみつを加えるだけ。  
氷を1片入れると冷たくてgood



昭和四十八年一月十三日 第三種郵便物認可  
平成三年十二月十日発行 (毎月十日発行)

発行所 北海道身体障害者団体  
札幌市北区北十三条西三丁目  
大塚印刷株式会社  
目録  
神原義郎

頒価三百円

# ノーススターセレクト 千歳発着

## 透析センタープラン

**香港** 4日間 千歳発着直行便  
**シンガポール** 5日間 千歳発着直行チャーター便  
**ハワイ** 6日間 千歳発着名古屋経由

■最少乗付人員2名 ■空港税は、現地でのお支払いください。 ■入国審査を使用する場合、追加料金がかかります。 ■透析料金は含まれません。 ■自由行動時のオプション等についてはお問い合わせください。

### 香港

直行便で行く香港・フリータイム4日間・5日間

アパティーン  
水上レストラン  
毎朝食付

千歳発着 直行便  
**¥118,000** から

**出発日**  
〈4日間コース〉  
3月末日までの毎週木曜日出発  
〈5日間コース〉  
3月末日までの毎週月・土曜日出発

■添乗員は同行しません、現地係員がお世話いたします。  
(ご利用ホテル)  
○エコノミー/チャイナマーチャントホテルクラス  
○スーパーリア/グランドタリールホテルクラス  
○テラックス/リーガルメリアンホテルクラス  
メディカルサービス  
**香港人工腎臓透析センター**  
■日程は、航空会社及び現地事情により変更となる場合があります。

日次	千歳発	スケジュール	朝	昼	夕
1	10:30 14:30	CX/JL481便にて、香港。着後、専用バスにてホテルへ。			+
2	2	午前 香港鳥瞰光(ピクトリアパーク、レパルスベイ、タイガーバームガーデンなど) 午後 九龍鳥瞰光(ネーサン通り、電梯展望台など)、ショッピング。 夕食はアパティーンレストラン。		■	■
3	3	終日自由行動。		■	
4	4	終日自由行動。		■	
5	5	13:40 出発迄、自由行動。 19:05 後、ホテルより専用バスで空港へ。 CX/JL480便にて千歳へ、着後解散。		■	+

### シンガポール

WACチャーター便で行くシンガポール・フリー5日間

サンセット  
ディナークルーズ  
毎朝食付

千歳発着 チャーター便  
**¥148,000**

**出発日**  
2月21日

■添乗員同行  
(ご利用ホテル)  
○テラックス/全日空ホテルクラス  
メディカルサービス  
**シンガポール透析センター**  
■日程は、航空会社及び現地事情により変更となる場合があります。

日次	千歳発	スケジュール	朝	昼	夕
1	1	午前 千歳よりチャーター機にてシンガポールへ。 午後 入国手続き後、ホテルへ。			+
2	2	午前 市内観光(植物園、マウントフェバーなど) 午後 ショッピング		■	■
3	3	終日自由行動。 *オプショナルツアー(マレー半島最南端の島、マレーシア領ジョホールバル観光、マンダイ園遊園地見学)		■	
4	4	終日自由行動。 サンセットディナークルーズ(シンガポール最後のロマンチックな夜をお過ごしください。) *オプショナルツアー(総合ジャニアランド、セントーサ島観光)		■	+
5	5	チャングニ国際空港へ。 出国手続き後 空路千歳へ。 着後解散		■	

### ハワイ

全日空名古屋経由で行くハワイ・フリータイム6日間

サンセット  
ディナークルーズ付

千歳発着 名古屋経由  
**¥128,000** から

**出発日**  
3月末日  
までの毎週  
土曜日出発

■添乗員は同行しません、現地係員がお世話いたします。  
(ご利用ホテル)  
○エコノミー/コーラルリーフホテルクラス  
○スーパーリア/パシフィックビーチホテルクラス  
○テラックス/ハワイアンリージョントホテルクラス  
メディカルサービス  
**アロハ透析センター**  
■日程は、航空会社及び現地事情により変更となる場合があります。

日次	千歳発	スケジュール	朝	昼	夕
1	1	午後 千歳から名古屋経由ホノルルへ。 (日付変更線通過) 到着後、空港でレイの歓迎を受け、ホノルル市内観光へ。(パンチボールの丘、ヌアヌア、パピなど) 昼食 ハワイ風ウェルカムランチ			+
2	2	終日自由行動		■	
3	3	終日自由行動		■	
4	4	*オプショナルツアーなどでお楽しみ下さい。		■	
5	5	出国手続き終了後、ANA便にて帰国途へ。		■	+
6	6	(日付変更線通過) 名古屋経由千歳着。着後解散。		■	

各コースにつきましては、お客様のご希望により透析日時及び、オリジナル旅行プランのご相談にも応じます。  
出発日・ご利用ホテルにより料金が変わります。くわしくはお電話でお問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込みは  
 札幌営業所 (011) 241-6841  
 千歳本社旅行部 (0122) 24-2121  
 恵庭営業所 (0123) 33-7711  
 旭川営業所 (0166) 23-2817  
 株式会社 戸田

社団法人 日本旅行業協会 運輸大臣登録一般旅行業第501号  
札幌市中央区南1条西5丁目(郵政支局ビル3階) 取扱主任者 坂本秀雄